

別添様式2-(1)

自然環境整備計画(国定公園等整備事業)
【令和5年度～令和9年度】

ながのけん
長野県

令和4年12月

変更 令和5年12月

別添様式2－(2) 目標、計画期間及び整備方針(自然環境整備計画(国定公園等整備事業))

都道府県名	長野県	対象地域	八ヶ岳中信高原国定公園
-------	-----	------	-------------

計画期間	令和 5 年度 ~ 令和 9 年度
------	-------------------

目標

大目標: 八ヶ岳中信高原国定公園における自然景観、動植物等の保全を図るとともに、適正な利用を推進することを目標に以下の事業を実施する。

目標1: 植生保護と利用者の安全確保のための歩道等の整備を進める。

目標2: 環境保全と利用者の利便性を高めるための園地及び駐車場等の整備を進める。

目標設定の根拠

対象地域の現状

【公園の概況】

- ・長野県のほぼ中央部に位置し、各種の火山地形を有する八ヶ岳連峰とその北西に連なる火山性台地である霧ヶ峰、高ボッチ、美ヶ原などの中信高原にわたる地域で、優れた自然景観を有する風景地である。また、八ヶ岳連峰に生育する高山植物、霧ヶ峰高原の湿原植物群落、美ヶ原高原の乾性高原植生に特色がある。
- ・昭和39年6月1日に指定され、指定と同時に公園計画の決定並びに特別地域及び特別保護地区の指定が行われ、以降、いくつかの利用施設の追加が行われている。しかしながら、八ヶ岳の登山道、中信高原の歩道は、昭和40年代の一斉整備から30年余が経過し、木橋、階段、梯子などの老朽化が顕著である。また、平成14年に本公園を縦貫する旧霧ヶ峰有料道路(ビーナスライン)が無料化され、自動車による利用者の増加が顕著であるため、自然公園内の踏み荒し、し尿処理等の各種問題が発生している。
- ・社会的条件の変化と共に、特色ある植生が変化しつつある。

【美ヶ原地域】

- ・長野県美ヶ原自然保護センターの主催による自然観察会が開催されているほか、長野県自然観察インストラクターによる野外学習等の活動が拡大しており、歩道(道標等)の利用が高まっている。

【霧ヶ峰地域】

- ・平成20年度から地域関係者・学識経験者・行政等による「霧ヶ峰自然環境保全協議会」が設立され、「霧ヶ峰保全再生計画」「施設整備基本構想」「霧ヶ峰エコツアーリズム構築計画」が計画されている。

【八ヶ岳地域】

- ・八ヶ岳の核心部である赤岳及び横岳等は、この公園の核心的景観を構成する重要な要素であり、毎年多くの登山者が訪れている。
- ・白樺高原について、大規模な宿泊施設や遊園地や自然園等が整備されており、多くの観光客が訪れる地域となっている。

課題

- ・近年、百名山(八ヶ岳、蓼科山、霧ヶ峰、美ヶ原)への中高年登山者が増加しているなか、木橋、橋梁、階段、梯子、道標などの老朽化が顕著であり、利用者の安全確保のため一刻も早い整備が必要である。
- ・コロナ禍により減少した利用者を取り戻すために、施設整備を行い自然公園の質を向上させる必要がある。

【美ヶ原地域】

- ・美ヶ原ロングトレイルが開設され、既存歩道の利用者が増加しているが、歩道の荒廃等が進んでおり、歩行の安全性とともに歩行者の歩道の踏み外しによる踏み荒らし等も見受けられる。このため、周辺の植生荒廃を防ぐとともに利用者の安全確保のため早急な歩道整備及び公衆便所の整備が必要である。また、今後の利用客の増加に対応するために天狗の路地博物展示施設(美ヶ原自然保護センター)及び周辺施設の再整備が必要である。
- ・美ヶ原高原では春から秋にかけて牛の放牧が行われている。そのため牛の歩道への侵入防止や病気のリスク(観光客による病原体の持ち込みなど)にも配慮する必要がある特殊な地域となっている。

【霧ヶ峰地域】

- ・各所に点在する自然探勝地を探索・周遊する既存歩道の一部路線で整備が不十分なため、歩行の安全性とともに歩行者の歩道の踏み外しによる踏み荒らし等も見受けられる。このため、周辺の植生荒廃を防ぐとともに利用者の安全確保のため早急な歩道整備が必要である。
- ・八島湿原を散策・周遊する既存歩道の老朽化が進んでいるため破損等危険な箇所が多く見られる。このため、利用者の安全確保のため早急な歩道整備が必要である。

【八ヶ岳地域】

- ・横岳駐車場は、八ヶ岳の代表的な山横岳に至る歩道の起点に位置しているが、利用者の増加に伴い轍等が発生し荒廃が進行しているため早急な整備が必要である。
- ・白樺湖周辺では、大規模な宿泊施設や遊園地が整備されており観光客が多く訪れているが、周辺の園地及び駐車場の整備が不十分なため、早急な整備が必要である。
- ・白樺湖の北東に位置する竜ヶ峰・見晴台園地は御泉水自然園が位置しており、蓼科山への代表的な登山口にもなっていることから、利用客が多い地域であるが、施設整備が不十分なため、早急な整備が必要である。
- ・高ボッチ山では、探索・周遊する既存園路の整備が不十分なため、歩行の安全性・利便性の確保が必要である。このため、歩行者の安全確保とともに周辺の植生荒廃を防ぐため、早急な園路整備が必要である。
- ・八千穂高原に位置している本間川上流野営場について、近年のキャンプブームにより利用者が増加しているところであるが、施設整備が不十分なため、早急な整備が必要である。

対象地域の整備方針	方針に沿った主要な事業
○歩道及び付帯施設の整備 ・公園利用者の増加が進むなかへ、周辺の植生保護と利用者の安全性確保の観点から歩道施設及びそれに付随する案内標識等の整備を進める。	1-4、1-8 七島、八島線道路(歩道)事業 1-9、1-15 中信高原線道路(歩道)事業 1-11 広小場線道路(歩道)事業
○園地及び付帯施設の整備 ・公園利用者の増加が進むなか、環境保全と利用者の利便性を高めるため園地内の園路施設及びそれに付随する駐車場、公衆便所等の整備を進める。	1-2、1-6 白樺湖園地事業 1-3 竜ヶ峰・見晴台園地事業 1-12 王ヶ鼻園地事業 1-14 高ボッチ園地事業 1-16 塩くれ場園地事業
○駐車場及び付帯施設の整備 ・公園利用者の増加が進むなか、環境保全と利用者の安全性及び利便性を高めるため、駐車場及びそれに付随する公衆便所等の施設を整備する。	1-7 横岳駐車場事業 1-10 八島池駐車場事業
○野営場及び付帯施設の整備 ・公園利用者の増加が進むなか、環境保全と利用者の利便性を高めるため、野営場及びそれに付随する休憩施設等を整備する。	1-1 本間川上流野営場事業
○博物展示施設及び付帯施設の整備 ・公園利用者の増加が進むなか、環境保全と利用者の利便性を高めるため、老朽化の激しい既存施設の再整備を行う。	1-13 天狗の露地博物展示施設事業

目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
					基準年度	目標年度		
八ヶ岳中信高原国定公園	千人	自然公園等利用者数調	長野県が毎年実施	本整備計画における八ヶ岳中信高原国定公園の施設整備事業において、施設整備による利便性・安全性の向上が利用者の増加につながると考えられる。	10,591	R2	17,475	R9

その他必要な事項

別添様式2-(2) 目標、計画期間及び整備方針(自然環境整備計画(国定公園等整備事業))

都道府県名	長野県	対象地域	妙義荒船佐久高原国定公園
-------	-----	------	--------------

計画期間	令和 5 年度 ~ 令和 9 年度
------	-------------------

<p>目標</p> <p>大目標: 妙義荒船佐久高原国定公園における自然景観、動植物等の保全を図るとともに、適正な利用を推進することを目標に以下の事業を実施する。 目標1: 環境保全と利用者の利便性を高めるための野営場等の整備を進める。</p>
--

<p>目標設定の根拠</p> <p>対象地域の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係市町村等による「妙義荒船佐久高原国定公園連絡協議会」が設立されており、利用施設に対する美化活動などが行われている。 ・長野、群馬両県にまたがり、妙義山塊、荒船山などの優れた山岳景観を有する風景地である。このため、長野県・群馬県だけでなく首都圏からも散策に訪れる利用者が年々増加している。 ・コロナ禍により減少した利用者を取り戻すために、施設整備を行い自然公園の質を向上させる必要がある。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内山牧場野営場では、増加する利用者に対して既存施設数が少なく、また老朽化が進んでいるため、早急な施設整備により周辺植生の保全し、利用者の利便性の向上を図る必要がある。
--

<p>対象地域の整備方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野営場及び付帯施設の整備 <p>利用者が集中している内山牧場キャンプ場において、環境保全と利用者の利便性を高めるため、公衆便所及び休憩所等の改修を進める。</p>	<p>方針に沿った主要な事業</p> <p>1-17 内山牧場野営場事業</p>
--	---

目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
						基準年度		目標年度
妙義荒船佐久高原国定公園利用者数	千人	自然公園等利用者数調	長野県が毎年実施	本整備計画における妙義荒船国定公園の施設整備事業において、施設整備による利便性・安全性の向上が利用者の増加につながると考えられる。	819	R2	1,351	R9

<p>その他必要な事項</p>

別添様式2-(2) 目標、計画期間及び整備方針(自然環境整備計画(国定公園等整備事業))

都道府県名	長野県	対象地域	中央アルプス国定公園
-------	-----	------	------------

計画期間	令和 5 年度 ~ 令和 9 年度
------	-------------------

<p>目標</p> <p>大目標: 中央アルプス国定公園における自然景観、動植物等の保全を図るとともに、適正な利用を推進することを目標に以下の事業を実施する。</p> <p>目標1: 植生保護と利用者の安全確保のための歩道整備を進める。</p> <p>目標2: 環境保全と利用者の利便性を高めるための園地、野営場等の整備を進める。</p>
--

<p>目標設定の根拠</p> <p>対象地域の現状</p> <p>【公園の概要】 本公園は、4市、6町、3村の計13市町村で構成され、木曾山脈のほぼ全域にまたがり、北部の茶臼山から木曾駒ヶ岳、宝剣岳、空木岳、摺古木山等を経て大平峠、風越山に至る主脈一帯と木曾谷に位置する寝覚の床及び田立の滝周辺地域一体から成っている。山岳部のほぼ全域は花崗岩であり、氷期により形成された氷河地形や氷河湖、岩塊斜面と砂礫地が交互に現れる特徴的な山岳景観を有している。これら自然環境を育む傑出性の高い風景地であることから、昭和26年に県立自然公園として指定され、その後の調査により令和2年3月27日に国定公園に指定された。</p> <p>【千畳敷カール周辺一帯】 ・千畳敷カール周辺は、宝剣岳から伊那前岳の主稜線から切れ落ちた断崖とその下に広がる比較的平坦な底で形成されている。濃ヶ池は氷河湖であり国内でも希少な氷河地形の一つである。 ・この地域は優れた景観を有する地域であるが特に人為の影響を受けやすい地域でもあるため、施設整備により希少な自然環境保全するとともに、利用者の利便性の向上をはかる必要がある。 ・千畳敷カール周辺は中央アルプスを代表する地域であり、ロープウェイにより気軽に訪れることができるため、観光客が集中して訪れる地域となっている。</p> <p>【木曾山脈連峰】 ・地域の代表的な山である木曾駒ヶ岳や宝剣岳は、ロープウェイを利用することにより気軽に登ることができる山として公園内でも特に利用が多い。 ・稜線部は硬軟さまざまな花崗岩により岩塊斜面と砂礫地が交互に現れる特徴的な景観を有している。空木岳周辺はその代表といえる。 ・植生はハイマツやダケカンバ等の高山植物が広く分布し、チョウノスケソウやクロユリ等の希少な植生が見られる。</p> <p>課題</p> <p>【公園一帯】 国定公園化に伴い公園の知名度が大きく向上したところであるが、一方で無秩序な利用や踏み荒らし等により、山岳環境の悪化が懸念されていることから、適切な施設整備を進めることにより希少な自然環境を保全を促進し、利用者の利便性・安全性を向上させる必要がある。 コロナ禍により減少した利用者を取り戻すために、施設整備を行い自然公園の質を向上させる必要がある。</p> <p>【千畳敷カール周辺一帯】 ・ロープウェイにより利用者が多い一方、周辺の地形は人為的な影響を受けやすい地域であることから、歩道等の施設整備を進めることにより、利用者の踏み荒らしを防止するとともに利便性を向上させる必要がある。 ・既設の歩道、標識の老朽化が顕著であり、自然環境の保全及び利用者の安全確保のため早急な整備が必要である。</p> <p>【木曾山脈連峰】 ・山によって特徴的で希少な地形、植生を望むことのできる地域であるが、一方で利用者の増による踏み荒らしが懸念されているため、歩道等の施設を整備することにより利用者の踏み荒らしを防止するとともに利便性を向上させる必要がある。 ・既設の歩道、標識の老朽化が顕著であり、自然環境の保全及び利用者の安全確保のため早急な整備が必要である。</p> <p>【その他地域】 ・利用者の集中している園地や、野営場について、周辺植生の踏み荒らしを防ぐため、必要な整備を実施する必要がある。</p>
--

<p>対象地域の整備方針</p> <p>・歩道及び付帯施設の整備 国定公園化により、利用者の増加・集中が想定される登山道等について、歩道周辺の植生保護と利用者の安全性確保の観点から老朽化・損壊した歩道施設の重点的な改修等を進める。</p> <p>・野営場、園地及び付帯施設の整備 利用者が集中している野営場や園地について、環境保全と利用者の利便性を高めるため、整備や改修を進める。</p>	<p>方針に沿った主要な事業</p> <p>1-18、1-22 駒ヶ岳縦走線道路(歩道)事業 1-19 剣ヶ峰線道路(歩道)事業 1-20 池山線道路(歩道)事業 1-23 濃ヶ池線道路(歩道)事業 1-24、27 八丁坂線道路(歩道)事業 1-26 檜尾線道路(歩道)事業 1-21 千人塚園地事業 1-25 鉾盾山野営場事業</p>
---	---

目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
						基準年度		目標年度
中央アルプス国定公園利用者数	千人	自然公園等利用者数調	長野県が毎年実施	本整備計画における中央アルプス国定公園の施設整備事業において、施設整備による利便性・安全性の向上が利用者の増加につながると考えられる。	411	R2	678	R9

<p>その他必要な事項</p>

別添様式2-(2) 目標、計画期間及び整備方針(自然環境整備計画(国定公園等整備事業))

都道府県名	長野県	対象地域	中部北陸自然歩道
-------	-----	------	----------

計画期間	令和 5 年度 ~ 令和 9 年度
------	-------------------

目標
 大目標: 中部北陸自然歩道の自然環境・自然景観等の保全を図るとともに、適正な利用を推進することを目標に以下の事業を実施する。
 目標: 自然環境等の保全と利用者の利便性を高めるために指導標等の整備を進める。

目標設定の根拠

対象地域の現状
 ・中部北陸自然歩道は、平成8年度から中部北陸地域の各県(群馬県、新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、滋賀県)の境を越えて整備された長距離の自然歩道であり、長野県では、中山道、北国街道、塩の道といった古来から街道などに沿って、多くの人々が沿線の豊かな自然環境、景観や歴史、文化に触れ、親しみながら歩くことができるよう歩道が整備されている。
 ・長野県では、現在、中部北陸自然歩道は、6つの連続コース(①アルプス安曇野塩のみち、②中山道木曾路のみち、③中山道佐久から諏訪へのみち、④北国街道北信濃のみち、⑤善光寺街道山越えのみち、⑥北国街道千曲川旅情のみち)が設定され、さらに34コースに区分されている。長野県内の中部北陸自然歩道の総延長は667kmに及んでいる。

課題
 ・中部北陸自然歩道では、利用者の利便性を高めるため、道標を中心とした付帯施設の充実を図る必要がある。特に道標は、平成8年度から平成12年度に設置(928本)してから15年以上が経過し、老朽化が進んでいるため改修が必要である。また、解説板についても、文字がかすれ、読みにくくなることに加え情報の更新のため改修が必要である。
 ・コロナ禍により減少した利用者を取り戻すために、施設整備を行い長距離自然歩道の質を向上させる必要がある。

対象地域の整備方針	方針に沿った主要な事業
・道標の整備 中部北陸自然歩道について、歩道周辺の自然環境等の保全と利用者の利便性を高めるため道標整備を進める。	3-1 中部北陸自然歩道

目標を定量化する指標		定義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
指標	単位					基準年度	目標年度
中部北陸自然歩道利用者数	千人	自然公園等利用者数調	長野県が毎年実施	施設整備による利便性の向上が利用者の維持につながると考えられる。	1,540	R2	2,541 R9

その他必要な事項

3 長距離自然歩道に係る事業(国立公園及び国定公園内の事業は除く)

番号	長距離自然歩道名	事業名	事業箇所	事業主体	(参考)全体 事業費	(参考)全体事業期間		総事業費	交付対象 事業費	(参考)うち 都道府県費	(参考)うち 市町村費	(参考)交付対象事業費の年次配分				
						開始年度	終了年度					1年目(令和5年度)	2年目(令和6年度)	3年目(令和7年度)	4年目(令和8年度)	5年目(令和9年度)
3-1	中部北陸自然歩道	中部北陸自然歩道	長野市(ながのし)	長野市	4,200	R5	R8	4,200	4,200		2,310	1,300	1,100	1,000	800	0
					4,200			4,200	4,200	0	2,310	1,300	1,100	1,000	800	0

4 合計

番号	事業名	事業箇所	事業主体	(参考)全体 事業費	(参考)全体事業期間		総事業費	交付対象 事業費	(参考)うち 都道府県費	(参考)うち 市町村費	(参考)交付対象事業費の年次配分				
					開始年度	終了年度					1年目(令和5年度)	2年目(令和6年度)	3年目(令和7年度)	4年目(令和8年度)	5年目(令和9年度)
				1,859,821			1,859,821	1,859,821	42,334	980,570	90,636	204,653	158,044	253,994	1,152,494

別添様式2-(4) 交付対象事業概要等一覧表(国定公園等整備事業)

都道府県名	長野県
-------	-----

1 国定公園に係る事業(生態系維持回復事業を含む)

番号	公園名	事業名	事業概要	新規・再整備	既存施設の有無	既存施設の概要	整備年度	国庫補助の有無	交付対象事業の適合
1-1	八ヶ岳中信高原国定公園	本間川上流野営場事業	休憩施設整備 一式	新規	○	休憩所施設N=1棟、公衆便所N=1棟	H30	×	○
1-2	八ヶ岳中信高原国定公園	白樺湖園地事業	木道改修 L=280m	再整備	○	木道 L=280m	不明	×	○
1-3	八ヶ岳中信高原国定公園	竜ヶ峰・見晴台園地事業	木道改修 L=450m	再整備	○	木道 L=900m	不明	×	○
1-4	八ヶ岳中信高原国定公園	七島、八島線道路(歩道)事業	木道改修 L=350m	再整備	○	木道L=1,979m	H13	○	○
1-6	八ヶ岳中信高原国定公園	白樺湖園地事業	駐車場整備 舗装工 一式	再整備	○	園地、遊歩道、駐車場 一式	不明	×	△
1-7	八ヶ岳中信高原国定公園	横岳駐車場事業	駐車場整備 舗装工 一式	再整備	○	駐車場 一式	不明	×	△
1-8	八ヶ岳中信高原国定公園	七島、八島線道路(歩道)事業	木道改修 一式	再整備	○	木道 一式	H13	○	○
1-9	八ヶ岳中信高原国定公園	中信高原線道路(歩道)事業	木道改修 一式	再整備	○	木道 一式	H13	○	○
1-10	八ヶ岳中信高原国定公園	八島池駐車場事業	休憩施設改修 一式	再整備	○	駐車場、公衆便所N=1棟、休憩所N=1棟	H8	○	○
1-11	八ヶ岳中信高原国定公園	広小場線道路(歩道)事業	案内標識整備 一式	新規	×	-	-	-	○
1-12	八ヶ岳中信高原国定公園	王ヶ鼻園地事業	公衆便所整備 N=1棟	新規	×	-	-	-	△
1-13	八ヶ岳中信高原国定公園	天狗の露地博物展示施設事業	付帯施設(休憩施設)改修 一式	再整備	○	付帯施設(休憩施設)N=1棟	不明	×	○
1-14	八ヶ岳中信高原国定公園	高ボッチ山園地事業	木柵改修 L=207m	再整備	○	木柵 L=207m	不明	×	○
1-15	八ヶ岳中信高原国定公園	中信高原線道路(歩道)事業	木柵改修 L=500m	再整備	○	木柵 L=500m	不明	×	○
1-16	八ヶ岳中信高原国定公園	塩くれ場園地事業	公衆便所改修 N=1棟	再整備	○	公衆便所 N=1棟	不明	×	○
1-17	妙義荒船佐久高原国定公園	内山牧場野営場事業	休憩所整備 N=1棟、公衆便所改修 N=1棟、公衆便所整備N=1棟 ほか	再整備	○	公衆便所 N=1棟 宿泊施設N=1棟	S47~H8	○	△
1-18	中央アルプス国定公園	駒ヶ岳縦走線道路(歩道)事業	標識改修 N=8基	再整備	○	木製標柱ほか	不明	×	○
1-19	中央アルプス国定公園	剣ヶ峰線道路(歩道)事業	歩道整備 L=500m、丸太土留工、丸太階段工、ロープ柵工ほか	再整備	○	丸太土留、階段、木製梯子、グリーンロープ工ほか	H15	×	○
1-20	中央アルプス国定公園	池山線道路(歩道)事業	階段改修、土留改修他 一式	再整備	○	木製階段、土留、アルミ階段ほか	H15	×	○
1-21	中央アルプス国定公園	千人塚園地事業	公衆便所改修N=1棟、遊歩道の改修工事、柵工L=145m	再整備	○	公衆便所N=1棟、木製階段	不明	×	△
1-22	中央アルプス国定公園	駒ヶ岳縦走線道路(歩道)事業	案内標識改修 一式	再整備	○	案内標識 一式	不明	×	△
1-23	中央アルプス国定公園	濃ヶ池線道路(歩道)事業	案内標識改修 一式	再整備	○	案内標識 一式	不明	×	△
1-24	中央アルプス国定公園	八丁坂線道路(歩道)事業	階段改修 一式	再整備	○	ふとんかごL=2m、階段2箇所 ほか	不明	×	○
1-25	中央アルプス国定公園	鉾盾山野営場事業	公衆便所改修N=1棟	再整備	○	休憩施設、公衆便所 ほか	不明	×	△
1-26	中央アルプス国定公園	檜尾線道路(歩道)事業	木製階段、梯子、土留工、植生剪定工ほか	再整備	○	木製階段、梯子、土留工ほか	不明	×	○
1-27	中央アルプス国定公園	八丁坂線道路(歩道)事業	木製階段、土留工、水切工、植生剪定工ほか	再整備	○	木製階段、土留工、水切工ほか	不明	×	○

